

日アフリカ官民経済フォーラム

岡本政務官スピーチ（仮訳）

【冒頭挨拶】

- 日アフリカ官民経済フォーラムの重要な第一回会合に参加でき嬉しい。日アフリカのパートナーシップを前進させる意欲を持った、双方の企業幹部にお集まりいただき嬉しい。
- 新たなビジネス・フロンティアを切り開く主体は、民間セクター・起業家のイニシアティブによって切り開かれるものだが、新たなビジネスの原動力となる技術・イノベーションの活用を促すことのできる政府の役割は重要。また、良好なビジネス環境は、政策によって支えられる経済、ガバナンス、人的資源、インフラ等の条件に依拠している。

【T I C A Dプロセスと日本の貢献（総論）】

- T I C A Dプロセスは、日本の対アフリカ外交の中心である。2016年に各国首脳によって採択されたT I C A D VIナイロビ宣言の第一の柱、「経済多角化・産業化を通じた経済構造改革の促進」は、まさに新たなフロンティアを切り開く文脈で必要とされる良好なビジネス環境整備を目指すもの。
- 日本は人材育成及び生産性向上を通じた民間セクターの活動支援、及び質の高いインフラ整備を通じた連結性強化にコミット。
- 日本の貢献の中核は、未来の人材育成、質の高いインフラ及び社会安定化を狙いとしている。

【人材育成とA B Eイニシアティブ】

- 人材育成は、自立的発展の前提条件。
- A B Eイニシアティブの下、労働市場に真に適合した人材育成を推進してきた。2013年のT I C A D Vに端を発するA B Eイニシアティブは「出口のある教育」をコンセプトとしている。アフリカの若者に対し、日本の大学院で学び、日本企業でインターンシップを行う機会を日本滞在中に提供し、アフリカの産業発展に必要な実践的能力及び知識の獲得を支援。数名の研修生は、日本とアフリカとつなぐビジネスにおいて重要な役割を担いつつある。

【質の高いインフラ】

- 連結性強化に関し、日本はT I C A D VIで約100億ドルの質の高いインフラ投資を表明。質の高いインフラを、国際的なスタンダードに整合的で、経済的な実現可能性と財政の健全性を確保する形で促進することの重要性を強調したい。インフラ開発は関係者の継続的な関係構築を促進する。我々のパートナーシップが質の高いインフラ開発を通じ一層強化され、日本とアフリカの官民、草の根を含む全てのレベルでより緊密化する

ことに期待。

【社会の安定化】

- 繁栄の共有への努力が治安への懸念によって阻害されるべきではない。日本は平和と安定が持続的な発展の前提と認識。紛争地域に於いて、安定、テロ対策、職業訓練や職業機会の提供等の分野における能力構築を支援してきた。社会の安定と安全は海外からの直接投資を決める際の重要な鍵となる。

【投資促進と知識・技術】

- 貿易・投資は成長の動力であると同時に、技術・知識の普及に大いに貢献する。特に海外直接投資は、技術の波及の主なチャネル。海外の企業は資本、技術及びノウハウを提供し、職業訓練や経験を通じて地元の労働者の能力を高め、それらは現地で広がっていく。

【アフリカ政府の投資促進努力への期待】

- 投資先としてのアフリカの魅力を高めるために成すべきことは多い。グッドガバナンス、多角化した経済、予見可能性、透明性、基礎インフラ及び社会安定性は投資促進の鍵であり、更なる投資誘致を望む各国政府に対し、一層の努力を強く奨励する。この点、南アフリカにおけるラマポーザ大統領の「投資拡大イニシアティブ」や、ガーナにおけるアクフォ・アド大統領のビジネスフレンドリーな経済推進に向けた取組を含む、アフリカ諸国の最近の取組に勇気づけられている。

【日本の基本政策：自由で開かれたインド太平洋戦略】

- 国際社会の安定と繁栄の鍵を握るのは最も躍動的で、潜在力溢れるアフリカとアジアの2つの大陸の交わりにより生まれるダイナミズム。この「自由で開かれたインド太平洋戦略」の下、我々を取り巻く海において、ルールに基づく、自由で開かれた海洋秩序を維持・強化し、全ての国に差別なく安定と繁栄をもたらす国際公共財としたい。

【結び】

- アフリカは希望に溢れた大陸。日本は包摂的・透明で参加型のT I C A Dプロセスを通じ、官民とともにアフリカのパートナーシップを強化し、関係を強化し、貢献を続ける。アジェンダ2063に反映されたアフリカの希求を実現するため、貢献していくことを楽しみにしている。

(了)